

会議名	平成 22 年度第 2 回 第 2 分科会(健康、福祉分野)
日時	平成 22 年 10 月 13 日(水) 14 時～16 時 30 分
場所	江南市役所 2 階 第 1 会議室
出席者	市民委員 平松宏幸、小椋雅江、沓名珠子、福田正義、松尾昌之、水野純子、渡部敬俊
	市職員 安藤利継、佐藤和弥、前田明廣、箕浦規師、江口勲
議題	1. まちづくり評価及び戦略計画の見直しについて 2. 平成 22 年度第 3 回まちづくり会議(分野別会議) 日程について
資料	1. まちづくり評価シート(資料 5)[前回配付資料] 2. 戦略計画見直し作業結果シート(資料 6)[前回配付資料] 3. 第 1 回議事要旨

◆ 会議結果 ◆

1. まちづくり評価及び戦略計画の見直しについて

・江南市戦略計画の前期間(H20～H22)のまちづくり評価及び戦略計画の見直し案について、担当課長から説明がありました。

**[柱 5]「保険年金制度の健全な運営」**(説明のみ)

・各柱に対する意見等は次のとおりです。

**[柱 1]全体目標「高齢者が生きがいをもって安心して暮らしている」**

・ボランティア団体の協力を得ながら、高齢者が外へ出たり、活動できる機会を住み慣れた地域で数多く取り入れていく必要があるとの意見があり、まちづくり評価または戦略計画に反映していきたいとの説明がありました。

・そうした機会が一番身近なものは老人クラブであり、行政から老人クラブへ働きかけができるの良いとの意見がありました。

・今後、社会にいかに貢献していくか、老人クラブのあり方を考える必要があるとの意見がありました。

・地域ごとに、子どもの保育園のような老人向けの施設ができないか。老人が持っているノウハウを出す機会がないので、もったいない。特に男性は、定年退職した段階で、持っている力がストップしてしまうとの意見がありました。

・竹とんぼのような昔遊びや市民菜園を利用した活動などを通じた老人と子どものふれあいなど、「子育て」から「孫育て」への転換が双方にとって良いのではないかと意見があり、老人と子どもの交流の場があれば良いと考えているが、なかなか進まないのが現状であるとの説明がありました。

・働きかけるのは老人クラブであっても、実施の活動は、内容に応じて個々に行うなど弾力的に対応していけば良いのではないかと意見がありました。

・「老人」という名称に抵抗があるので、老人の手前の段階の抵抗のない名称を考えてはどうかとの意見がありました。

・社会福祉協議会、シルバー人材センターとの連携が必要であるが、敷居が高く、また、保育園、学校との連携も必要だが、閉鎖的であるのでなかなか中へ入っていけないのではないかと意見がありました。

・個人々に得意分野があるので、地域で気軽に立ち寄り、活動できる場があると良い。また、活動していく中で力がついてきたら、その力を地域でどう活かしていくかを行政とカルチャーセンターが連携して進めると良いとの意見がありました。

## 〔柱 2〕全体目標「安心して子育てしている」

- ・授業を受けない、授業中に勝手に外へ出て行ってしまふなどの児童・生徒がいると聞いているとの意見があり、保育園の園児を見る限りでは、どうしてそうなるのか疑問であるとの説明がありました。
- ・学校の先生は、何かがあるとすぐに親から苦情があるので、児童・生徒に対して、一定以上怒ったりできないので、学校は個別のことは取り上げないようにしていると思われるとの意見がありました。
- ・親のスタンスが問題であり、自己責任がなく、自分の権利ばかり主張する親が増えているとの意見がありました。
- ・親からの苦情の対処は、行政がやっているが、行政が行う対処には限界があるので、行政以外に、きちんと物が言える人が必要であるとの意見がありました。
- ・子育ては親が中心であり、親の教育が必要である。教育委員会と連携して進める必要があるとの意見があり、教育分野へその旨を伝えることとなりました。
- ・親が学校などに過大な期待をしてしまふ。本来、家庭でやるべきことを誤って理解されているので、地域で子育てを行っていきけるよう、合意形成が必要であるとの意見があり、保育園では、苦情等の対応については、個人的に行うのではなく、保護者全体で行うようにしているとの説明がありました。

## 〔柱 2〕個別目標④「支援が必要な子育て家庭が自立して子育てができていく」

- ・まちづくり評価の「目標達成のための今後の展開方針」中、「就労についての相談があれば」とあるが、待ちの姿勢ではなく、攻めの姿勢とならないかとの意見があり、検討するとの説明がありました。

## 〔柱 3〕個別目標①「障害者が生活しやすい社会環境が整備され、能力にあった就労・社会参加をしている」

- ・障害者の雇用率の達成状況が良くないので、障害者の就労について、もっと充実していく必要があるとの意見がありました。
- ・「職親」の実態はどうなっているかとの質問はあり、現在 1 人であり、障害者の就労は、授産施設が中心となっているとの説明がありました。
- ・授産施設は賃金が安いので、職親制度の充実が必要であるとの意見がありました。
- ・軽度の障害者の学校教育終了後の居場所の確保を行政に期待するとの意見がありました。
- ・新布袋駅の障害者向けの対応はどうなっているかとの質問があり、エレベーターの設置が計画されているとの説明がありました。
- ・視覚障害ボランティアに対し、希望者以外の対象者を教えてもらえないかとの要望があり、すべての対象者が希望している訳ではないので、むずかしいとの説明がありました。
- ・障害者の就労について、名古屋市のリハビリテーションセンターのようなケアができる所がないかとの質問があり、現在、市内にはないが、名古屋市のリハビリテーションセンターへ江南市から 3 人程行っているとの説明がありました。
- ・市内の病院とタイアップして実施できないかとの意見があり、実施するには、事業者として登録しないとできないとの説明がありました。
- ・名古屋市の施設へ行ける人は良いが、大多数は、行けずに家に引きこもってしまう。補助的にアドバイスのようなことを行ってもらうことから始めてはどうかとの意見がありました。

## 〔柱 3〕個別目標②「障害者は日常生活の支援を受け、安定した生活をしている」

- ・住宅改修に対する支援制度の補助対象の内容に変更がないかとの質問があり、一定の要件はあるが、内容に変更はないとの説明がありました。
- ・補助対象を杓子定規で決めるのではなく、実情に応じて決めるようにできないかとの意見があり、最近では、対象の範囲が拡大してきており、実情に合った対応に心掛けていくとの説明がありました。

## 2. 平成 22 年度第 3 回まちづくり会議(分野別会議)日程について

- ・第 3 回の会議の開催日時を決定しました。

開催日時:平成 22 年 10 月 21 日(木)午後 1 時～ 市役所 2 階 第 1 会議室